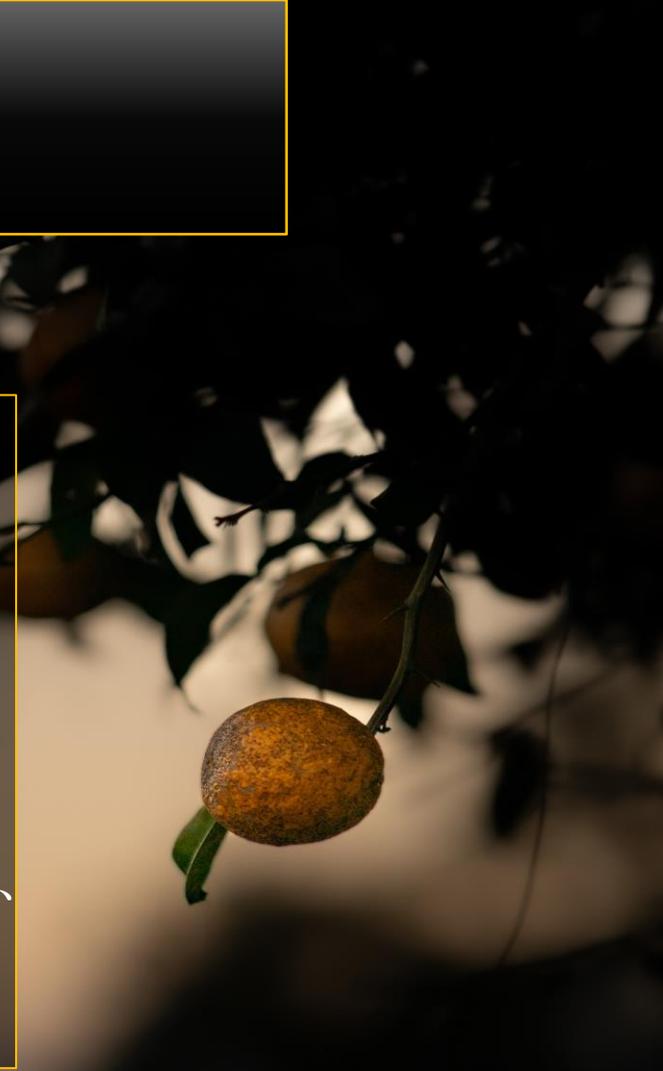


1月「Zitrusfrucht」 アントニア・シュルト

1.ドイツでは気候のため柑橘は栽培できません。まあ、「できません」と言っても、ハウスの中に植えたら、何とか生き残るかもしれませんが、商業的な目線からいうと「やめたほうがいいです」。それにしても、ドイツ人は柑橘が大好きで、ある調査によるとドイツの柑橘消費率はヨーロッパの産地であるスペインよりずっと高いと分かりました。特にクリスマスの時期に、ミカンなどをいっぱい食べる習慣があります。子どもの頃、それは少し不思議に思ったところでした。なぜなら、ドイツの冬は寒いし、暗いし、なんとなく果物を収穫できる時期ではないと感じたからです。



1月「Zitrusfrucht」 アントニア・シュルト

2.今、小林市を歩いて、数え切れないほどの柑橘がついている木々が見えます。日本人にとって、当たり前前の冬の景色だと思いますが、私には今でも不思議で、たまらない時は写真を撮ってしまい、同感できそうなドイツの友達などに送ります。ドイツ人同士の中では、反応はほぼ同じで、みんな「すごい！」と素直な関心を表します。どこが「すごい」というと、「冬に青空」とはまずすごいです。もみの木でない葉っぱがついている木も結構すごいです。成熟した柑橘がついている木がもっともありえないドイツの冬景色なので、最高にすごいです。子どもの頃から感じた不思議さを思い出して、その昔から抱えた謎が解けました。柑橘をたまたま冬場に食べるのではなく、冬が旬となっているという大きな開眼でした。産地となる国では、冬でも普通に果物や野菜などを栽培できるということは南ヨーロッパ人や南九州人にとって当たり前なことだと思いますが、私はここに来て、初めて納得出来ました。



1月「Zitrusfrucht」 アントニア・シュルト

3. タイトルに戻れば、ドイツではオレンジの別の言い方は「Apfelsine」（アフェルジネ）となります。分解したら、その言葉は「Apfel」（リンゴ）と「Sine」→「Sina/China」（中国）の複合名詞です。ちなみに、「中国からのリンゴ」。もともとヨーロッパにはなくて、古代に中国か東南アジアから来たらしいです。

12月6日はドイツで、ニコラウスの日をお祝いします。子どもが特別なお皿や靴を出して、ニコラウスというサンタさんの仲間がお菓子と小さなプレゼントなどを入れます。その中によくあるのはミカンです。今まではその理由をよく考えたことはありませんでしたが、調べて、昔話を見つけました。昔、結婚に必要な持参金がなく、貧しい二人の小娘がいて、幸せになれるように、ニコラウスさんがニコラウスの日に靴下に金貨を入れて、二人を貧困から救い出してあげたと。子どもが幸せになるように、お金の代わりにシンボリックなミカンを入れるという習慣が残っています。

